**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」  ・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選  会員及び一般部門　エッセイ募集：  2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ  原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。  ※パワーポイント使用可。  【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。  ※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開  入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。  青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　「統一は突然やってくる」**

**お名前：　　長谷川　幸喜**

(下記より本文をご記入ください) 私は、金辰明氏の著書の「預言」をきっかけに、眠っていた南北統一の思いが目覚めました。

「文総裁、統一はいつごろになりますか？」・・中略・・「２０２５年！」

この「預言」のエピローグにハッとさせられました。私は、文鮮明総裁が興南から解放され、南に向かい38度線を超えるときの祈りである「天の父よ！　私は韓国の地に行きます。私は北韓に来てみ旨を成すことができずに敗者のつらさをもったまま、獄中の身を免れることができませんでした。そして今、追われる群れの歩みに従って南に行きます。

しかし、またこの地を訪ねてこなければならないことを知っています。たとえ私が、三十八度線の北側に行くことができなくても、私の思想を植えて後孫を行かせます。彼らが行くことができなければ、私に従う弟子を送って行かせます」という祈りに心を打たれ、さらに韓国人の妻を迎え、自分は南北統一実現に関わり、何らかの貢献をしていきたいという熱い思いがありましたが、いつの間にか生活に追われ、正直その燃える思いはどこかに行ってしまっていた時に出会ったのがこの「預言」でした。

とはいえ「預言」を読んで私はハッとは思ったものの、何をどうすれば良いかは全く思いつきませんでした。

その時、妻が「家にこの本があったよ」と私の前に出てきたのは文鮮明総裁の著書「神の摂理から見た南北統一」でした。思わず「どうしたの？誰が買ったの？」と私は聞いてしまいました。この本は間違いなく自分で購入したものでしたが、家にあったことさえ忘れていたという申し訳なくお恥ずかしい限りの私でした。

６㎝近くある本の厚みに圧倒されながらも読み進めていきましたが、最初は正直あまりピンときませんでした。本に書かれている歴史的内容や思想的内容を理解するにはあまりにも知らないことが多すぎました。実は私自身、そもそも歴史や思想に関心がありませんでした。関心のないものと向き合うのはとても苦痛です。まさに壁です。それでも理解するためにはまず、一つ一つの書かれている内容に向き合わないといけないと思い、わからない所を見つけては一つ一つ紐解くように調べていきました。

インターネット、YouTube、当時行われていた平和統一聯合がzoomで開講していた講座などが理解の助けてくれました。

「なぜ分断されたのか？」「今まで統一のためにどんな歩みがあったのか？」「北朝鮮民主主義人民共和国とはどういう国なのか？」「日本の中にいる在日の方たちはどういう方々なのか？」「韓民族、韓国文化とはどういうものなのか？など私の知らないこと、わかっていなかったことがたくさんありました。自分たちの意思とは無関係に同じ民族が分断され、相いれない二つの思想、文化の中で生きたこの民族の姿が見えてくるにつれ、とても心が痛みました。

私は南北統一の内容を学ぶことを通して、初めてその歴史の中に自分が生きていて、何もできなかった、何もしなかった私がいたことが俯瞰的に見えてくると、後悔の気持ちで苦しくなりました。しかし同時に2025年に向けてもう一度、チャンスが与えられたと希望に思えました。

そして知れば知るほどにこの思いを誰かに伝えたいという衝動にかられました。ある日、地域で数人の集まりがありそこで、思いのままに夢中で南北統一を学んで感じたことを語っていました。取り留めもなく語ったのですが、「今日の話は、よかった。感動した！」「もっといろいろ知りたいから聞かせてほしい」など、自分の想像以上の反応がありました。

今は、現実的に統一は難しい・・まして2025年？何を根拠に？という意見もあるでしょう。

しかし、私は心配しません。「統一の時は突然やってきます。」東西ドイツの統一を調べていた時にそのように思いました。

同じように民族の意思ではなく分断された東西ドイツの統一やベルリンの壁の崩壊の結末を一体、誰が予想できたでしょうか？いつかは統一されるかもしれないがいつ、どのように統一されるかはわからない。これが統一前の実際ではないでしょうか？

しかし東西ドイツの統一は突然、おっちょこちょいな報道官の勘違いがきっかけとなり神がかり的な統一が始まりました。

南北統一においても、何をきっかけに始まるかなど誰もわからないことです。

まさに「神のみぞ知る」です。どのように南北統一が始まるか？私にはわかりません。それより今、私ができることは、「学んで知ること」そして知って熱くなった心で「熱く語り、伝えて」南北統一の思いを共鳴、共有するたくさんの方々と出会い、輪を広げていくこと」だと思いました。

それで私の話を聞いて頂いた方のアドバイスもあり、「講義」という形で「統一への思い」を伝えるという試みをしました。実際、何の肩書のない自分の話を皆さんが聞いてくれるか？そもそも勝手に話してよいのか？という怖さもありました。しかし、決意して続けていく中で、聞いてくださる方が最初は数人から始まったのが１０人になり、２０人、３０人と次第に増えていきました。これはもともと皆さんの心の中で眠っていたものが「知ること」によって刺激され、共鳴したのだと思います。

東西ドイツが統一されて３０年以上たった今でも、分断の影響は残っているといいます。「経済格差」を指摘されることが多いですが、双方に「心の壁」が残っているようです。同じ民族であっても、永きにわたり分断されたことで、異なる文化、アイデンティティを持つ人々が急に、必ずしも対等とは言えない状況で統一されてしまったことで歪が生まれてしまったのでないかと考えます。一緒に暮らす中で生じる誤解、偏見や差別などに今も苦しんでいます。もともと同じ民族でありながらもお互いを理解できないことはどんなに苦しいことでしょうか？自分の価値観を中心として見てしまうことで相手が理解できない壁ができてしまったのではと考えます。自分を中心とした価値観ではなく、異文化を理解し、尊重し、愛することができるOne family under Godの価値観しか解決の道はないのではないでしょうか！

南北統一が始まれば同じような状況の「心の壁」ができることが予想されます。

日本には「民団」「朝総連」という国境はありませんが同じ民族でありながら異なる思想、アイデンティティを持つ人々が存在し暮らしています。また「日本人」と「在日」という異文化の民族が共に暮らしています。

ドイツと同じように、摩擦や葛藤、差別や偏見の歴史がありました。そして今も・・

この「民団と朝総連」「日本人と在日」が真の和合できる場所として創立されたが私たちの平和統一聯合です。

この設立された目的を私たちの国、日本で成すことができれば、ある日突然に南北統一が始まったとしても、「在日」の和合が日本でなされていれば、これは南北統一の希望のモデルとなるはずです。

そして何より日本人である私たちが南北統一を熱く願う群れとなれば、それは南北統一の大きなうねりとなることを私は信じ、これからも熱く南北統一を語っていきます！

在日に和合を、民族に統一を、世界に平和を！